

1年生保護者様

平成23年度 佐賀県学習状況調査結果の分析について

小城市立芦刈中学校
校長 小森 義美

平成23年4月18日、19日に中学校全学年を対象として「佐賀県学習状況調査」を実施しました。内容は2・3年生は国語・社会・数学・理科・英語の五教科、1年生は国語・社会・数学・理科の四教科および学習・生活に関する調査でした。その結果を分析し、本校生徒の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「観点別学習シート(個人用)」を配布しております。また、家庭学習の時間の確保や朝食喫食等に関しては、ご家庭の協力が必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。ご家庭でもよろしくご指導お願いいたします。

1. 1年生の傾向と今後の指導について

| | 傾 向 | 今後の指導について |
|----|--|---|
| 国語 | <p>全体の正答率は、県平均より1.8ポイント上回っている。観点別にみると、「書く」は2.8、「読む」は0.7、「言語事項」は3.0、それぞれ県平均を上回っている。特に、「言語事項」の「漢字の書き」において県平均を大きく上回っている。逆に、「話す・聞く」は0.7下回っている。</p> <p>全体として、「書くこと」「言語事項」は比較的よいが、それ以外の領域はほぼ県平均並みと言える。</p> | <p>言語事項の良好な結果は、宿題による漢字の学習と漢字テストとの連携によるものととらえ、今後も継続して取り組んでいきたい。県平均を下回った「話すこと・聞くこと」については、話すための材料を筋道立てて書いたり、聞き取ったことを簡潔にまとめたりするなど、比較的得意な「書く」活動と結び付けて伸ばしていきたい。</p> |
| 社会 | <p>全体での正答率を見ると、県平均より3.2ポイント上回り、十分達成の児童生徒の人数の割合が県基準を上回る成績であった。</p> <p>観点別では、特に「知識・理解」の観点で県平均を大きく上回っている。「思考・判断」「技能・表現」でも、県平均をクリアしている。</p> <p>領域別に見ると、「我が国の歴史」「我が国の政治の働き」「世界の中の日本」において県平均を上回っている。</p> | <p>1年次においては、内容領域では「我が国の歴史」「世界の中の日本」の領域が多いので、基礎的・基本的な内容の習得に努めたいと考えている。</p> <p>「知識・理解」の観点で県平均を大きく上回っている一方で、「思考・判断」「技能・表現」でも、県平均をクリアしている。しかしこれは、文章を読み取る力の不足が考えられ、様々な問題を考えたり、地図や資料の読み取ったりするなどの機会を増やし、「暗記」に頼る学習方法を考え直すきっかけにしていきたい。</p> |
| 数学 | <p>全体での正答率を見ると、県平均を上回り、おおむね達成の到達県基準を上回る成績であった。</p> <p>観点別でも、「見方や考え方」「表現・処理」「知識・理解」のどの観点でも県平均を上回っている。特に「表現・処理」は、学年の平均が十分達成をクリアしている。また、「知識・理解」においても学年の平均がおおむね達成をクリアしている。</p> <p>領域別に見ると、「数と計算」「図形」においては県平均を上回っているものの、「量と測定」「数量関係」においては下回る結果となっている。</p> | <p>1年次においては、内容領域では「数と計算」の領域が多いので、計算力を定着させるため、毎週末の課題に計算課題プリントを実施し、毎時間小テストをするなど行いたいと考えている。</p> <p>「見方や考え方」の正答率が他観点より低いと、それは、文章を読み取る力の不足が考えられるため、様々な問題を解く機会を増やしていきたい。</p> <p>また、IT授業を実施する中で生徒たちの疑問に多く答え、丁寧な指導をしていきたい。</p> |
| 理科 | <p>全体の正答率は76.3%で、県の正答率を6.2P上回り、おおむね達成の県到達基準も上回った。観点別でも、「思考」「技能・表現」「知識・理解」すべての観点において、県の到達度を上回った。領域別でも、「物質・エネルギー」「生命・地球」どちらも県の到達度を上回った。各設問における無回答率は低く、活用問題での正答率は県の到達度を上回った。</p> | <p>全体的に、小学校における基礎・基本の学力は、ある程度持ち合わせているものと判断できる。芦刈メソッドの、E:生かすという場面で、問題を多く解かせ、グループ活動を活用しながら、既習事項の定着を図りたい。</p> <p>個別にみると、科学的な思考力が高い生徒もいるが、表現することが苦手であったり、場の雰囲気や阻害されたりで、個々の思考を、授業全体の中で生かし切れていない。芦刈メソッドの、C:確かめる・深めるという場面で、小グループでの「思考の交流」の場を数多く設定して、思考力を深め、表現力を向上させたい。</p> <p>便利な世の中となり、自然体験や日常生活体験がますます希薄になっている。理科の学習が、日常生活や自分自身の身の回りのことと結びつくように、教材開発に力を注ぎたい。</p> |

2. 1年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について (○はよい傾向、△は課題と思われる傾向を表わしています。)

- 将来の夢や目標をもっていると答えた生徒が多い。
- 家庭学習する習慣がついており、平日1～2時間勉強する生徒が57.4%、2～3時間の生徒が19.1%、3時間以上の生徒が6.4%であった。
- 学校の授業の復習をしていると答えた生徒が多い。
- △ テストで間違えた問題について、後で勉強していると答えた生徒が少ない。
- △ 朝食を毎日食べていると答えた者が78.7%いるが、県平均の88.3%より少ない。
- △ 11時までには就寝している生徒が42.5%であり、県平均の75.8%に対して極端に少ない。